

## 一字ちがいの論

## An Essay on One-Letter-Different Words

氏家 飄乎

UJIIE Hyouko

---

**Abstract** It goes without saying that there are very many words in either English or Japanese in which one letter exchanging with another makes a different word, just as Iceland and Ireland, or 「おとな」 (*otona*: adult) and 「おとこ」 (*otoko*: man). Out of the collection I have so far gathered, here are shown Japanese words in which the different letters are voiced (濁音 *dakuon*) and unvoiced (清音 *seion*) and make their meanings interestingly related. They are shown in the Japanese *tanka* poetic form with 31 syllables (5-7-5-7-7). If someone should be interested in this essay and be given a hint to a new linguistic or historical or poetic study, I should be unexpectedly pleased.

---

**Keywords:** one-letter-difference 一字違い、一音違い語

---

## 序

言語の研究をやっていると、言語のさまざまな面に興味が及ぶようになる。それが勢いことばあそびのような姿を呈することにもなる。

一字ちがいでちがうことばになる例は少なくない。「おとな」と「おとこ」、「たわら」と「たわし」、「ことり」と「こおり」、「かんこう」と「せんこう」、というように際限なくつく。そのほかにも、例えば国名にしても、オーストラリアとオーストリア、アイスランドとアイルランド、アルバニアとアルメニア、イランとイラクなどみな一字ちがいが、横文字では、同じようにはいかない。Iceland と Ireland や Iran と Iraq は一字ちがいが、Australia と Austria は二字ちがいに、Albania と Armenia は三字ちがいになる。言語がかわれば、文字数もいろいろだが、これから挙げる例は主に日本語に限ることにしたい。

さて、改めて例を挙げてみる。明日（あした） と 足駄（あしだ）、手袋（てぶくろ）と 戸袋（とぶくろ）、のような一字ちがいの例はいくらでもあるが、カナ書きで一字もちがわない語でも、汚職事件（おしょくじけん）と お食事券（おしょくじけん）のように、全くちがう二語になる例もある。こんな例に出くわすと、日本語は案外厄介な代物だともいえそうな気がする。ここではこうした例は扱わない。

一字ちがうと、意味も変ってしまうのは普通のことだが、これが聞こえに関わるケースもよくあることだ。たとえば、ずうずう弁の人が「シーツにしみがついた」と言ったのが、聞く人には「スーツに墨がついた」と聞える。また、「腹づつみ」や「エベレーター」のような二音転換の誤りはどなたにもおなじみのものだが、このような例は英語にもあり、**Conquering Kings**（コンカリング キングズ）ではじまる賛美歌の歌詞を キンカリングコングズ と、キングコング のように言ってしまったという、イギリスのさるカレッジのエピソードも風のまにまに伝わっている。

今ここには、かつて思い立っていくらか集めたもので、さきに挙げた 明日（あした）と 足駄（あしだ）のような「清音と濁音」の一字ちがいの例をならべてみたい。しかしただ並べるだけでは面白くもないので、短歌風に一工夫して意味を盛り込んで並べてみたい。なおこれは、いままでにどこかほかの誌上で掲げた例と重なるものが若干あるが、ご容赦願いたい。

### 清音と濁音の一字ちがいの例

- 1 世の中は澄むと濁るのちがいにて  
俳句（はいく）は 短詩 バイク は 単車
- 2 世の中は澄むと濁るのちがいにて  
臭いものに 蓋（ふた） 臭いものは 豚（ぶた）
- 3 世の中は澄むと濁るのちがいにて  
二四（にし） が 八 なり 虹（にじ）は七色
- 4 世の中は澄むと濁るのちがいにて  
柿（かき）は くだもの 餓鬼（がき）は けだもの
- 5 世の中は澄むと濁るのちがいにて  
父（ちち）は （とうさん） 爺（ぢぢ）は （ぢいさん）  
〔正確には二字違い〕
- 6 世の中は澄むと濁るのちがいにて  
母（はは）は （かあさん） 婆（ばば）は （ばあさん）  
〔正確には二字違い〕

- 7 世の中は澄むと濁るのちがいにて  
肩（かた）は 凝るもの がた は 来るもの
- 8 世の中は澄むと濁るのちがいにて  
習字（しゅうじ）は 書くもの 十字（じゅうじ）は 切るもの
- 9 世の中は澄むと濁るのちがいにて  
菓子（かし）は 食うもの 食わねば 餓死（がし）なり
- 10 世の中は澄むと濁るのちがいにて  
天下（てんか）一品 電化（でんか）製品
- 11 世の中は澄むと濁るのちがいにて  
金閣（きんかく）は 義満 銀閣（ぎんかく）は 義政
- 12 世の中は澄むと濁るのちがいにて  
糞（ふん）は かすなり 文は 人なり
- 13 世の中は澄むと濁るのちがいにて  
渡洋（とよう）の大海 土用（どよう）の大波
- 14 世の中は澄むと濁るのちがいにて  
腐っても 鯛（たい）くずれても 台（だい）
- 15 世の中は澄むと濁るのちがいにて  
効果（こうか）観面 豪華（ごうか）絢爛
- 16 世の中は澄むと濁るのちがいにて  
not で 否定 nod で 肯定
- 17 文字ならべいい加減にせよきりもなし  
耳さわがしく筆をおくなり

## 結語

単なる言語研究とは一味ちがった一文になってしまったが、本研究誌の掲載に値する試みとポジティブに認定させていただき、投稿することにする。まったくの試み（エッセイ）に過ぎないが、これを言語研究の出発点として、あるいは言語の歴史的あるいは芸術的創作研究の足がかりとして、飛躍的大発展の端緒になる一文となるかもしれない。なれば幸いである。この一字かわりの論、一字ちがいの論が後進各位の研究発展のためのヒント・資料としてお役にたてば、これに過ぎる喜びはない。